



地域連携カフェ 『Café HONOBUONO』

三重短期大学 生活科学科食物栄養学専攻
三重大学 教育学部消費生活コース
㈱まちづくり津夢時風
津市大門大通り商店街
津市役所 商工観光部



■地域連携カフェの概要

◇ 連携カフェとは

平成 22 年度から大学間連携の一環として、学生による 1 日限定の『Café HONOBUONO』の出店を、毎年 12 月に津市大門大通り商店街において行っている活動である。三重短期大学生生活科学科食物栄養学専攻の学生、三重大学教育学部消費生活科学コースの学生、㈱まちづくり津夢時風、津市商工観光部とで協議を進め、大門通り商店街のご協力も得て出店し、今年度で 5 回目となる。

地域のコミュニティとなるカフェの出店を通じ、三重大学消費生活科学コースでは、消費生活に関する学習で学んだことを活かしながら店舗の準備や広報活動、フロアーでの接客などを行い、三重短期大学生生活科学科食物栄養学専攻ではランチセット、デザートセットなどのクリスマスに合わせた食事を提供する活動を行ってきた。今年度の開催は以下の通り。

名称: 『Café HONOBUONO』

(カフェ ほのぼーの)

月日: 平成 26 年 12 月 20 日 (土)

会場: 津市大門大通り商店街

「街の駅だいまん (大門)」



◇ 活動をはじめるきっかけ

三重短期大学上野前学長が、「『食』を通じた教育の連携を」と三重大学教育学部消費生活科学コースへ投げかけたことにより、学生の企画・運営による1日カフェが平成22年度に実現した。初年度は、津市の大門大通り商店街の空き店舗を活用した活性化事業「にぎわいプラザ in 大門」を利用して出店し、100食限定で用意したランチはあっという間に売切れとなった。その後も用意した食事は毎年完売している。



Café HONOBUONO のチラシ

■活動の目的

連携カフェは、産学官が連携しひとつのものを作り上げていく中で、それぞれの目的も果たすことが可能である。

◇ 三重短期大学生生活科学科食物栄養学専攻

栄養面や地産地消にこだわった献立、盛り付け、安全で衛生的な提供方法など、これまで講義や実習で学んだ事を実践することによる自身のスキルアップ

◇ 三重大学消費生活科学コース

企画・広報や消費者の立場、商店街の役割など消費生活に関する授業で学んだ事の実践

◇ (株)まちづくり津夢時風・津市商工観光部

中心市街地の活性化、幅広い世代の中心市街地への誘客、にぎわいの創出、市内教育機関との連携、商業の振興

◇ 大門大通り商店街

商店街の活性化、にぎわいの創出、来街者の促進、商業の振興

■メンバーの構成

平成26年度は、三重短期大学生生活科学科食物栄養学専攻調理学ゼミ（駒田亜衣准教授）を中心とした学生2年生19名、三重大学教育学部消費生活科学コースの授業「消費生活科学演習Ⅰ」（吉本敏子教授）の受講生2年生8名が、(株)まちづくり津夢時風等の協力を得て実施した。

■取組内容と成果

◇ 三重短期大学生生活科学科食物栄養学専攻の取り組み

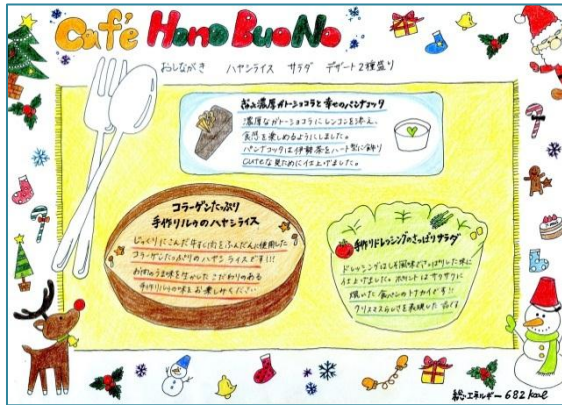
担当した活動内容は、ランチ・カフェの献立計画、栄養価計算、原価計算、食材の準備と調理で、提供時に使用する当日のメニュー紹介も行った。10月からクリスマスに提供するというテーマをもとに献立計画を立てて準備を進め、栄養的にも優れ、安全性や地域食材にも配慮したメニューを提案した。決められた原価に納まるように食材の種類や量を調整し、クリスマスらしさを出すために盛り付けを工夫するなど、それぞれ意見を出し合いながら何度も試作を重ねた。



100食限定ランチセット



カフェセット



三重短期大学 生活科学科食物栄養学専攻の学生たち

◇ 三重大学教育学部消費生活科学コースの取り組み

担当した活動内容は、主に店舗の準備、広報・宣伝活動、抱合せ企画の準備、当日のフロアでの接客である。店舗の準備では、事前に店舗の下見をしてレイアウトを考え、机や椅子などの配置や飾り付けを行った。広報・宣伝活動では、ポスターやチラシの作成と配布や Twitter による宣伝をしたり、新聞社やテレビ局、ラジオ局に取材の依頼をし、中日新聞、毎日新聞、三重タイムズ、FM 三重の取材を受けたりした。また抱合せ企画としては、大門大通り商店街を回って商店街の様子を知っていただくためのスタンプラリーの準備、三重大学教育学部附属特別支援学校高等部の陶芸作品と紙作品の販売、大門大通り商店街のお菓子屋の紹介を兼ねた菓子の販売を行った。カフェの当日は、三重短大が厨房で準備したランチセットやカフェセットを客に提供するフロアでの接客の仕事を行った。



抱き合わせ企画の販売商品（写真上）
スタンプラリー用紙（写真左）



三重大学 教育学部消費生活科学コースの学生たち

◇ 柵まちづくり津夢時風及び津市商工観光部の協力

大門大通り商店街への協力依頼、学生の名刺作成、会場設営、カフェ開催のPRなど、学生と密に連絡を取りながら活動を支援していただいた。また当日は、津市のゆるキャラの「ゴーちゃん」と「シロモチくん」にも参加していただき、活動を盛り上げていただいた。

◇ 津市大門大通り商店街の協力

カフェ店舗の手配、会場内の他店舗への協力依頼、机・イス等の貸与、カフェ開催のPRなどの協力をいただいた。





津市のゆるキャラ「シロモチくん」(左)と「ゴーちゃん」(右)

◇ 成果

活動に参加したメンバーは、カフェの運営を通して消費者や事業者としての視点から学ぶとともに、中心市街地の活性化についても考える機会を得た。事後の反省会では、カフェで提供する食べ物のメニューや価格の設定、人通りの少ない商店街への集客のための広報・宣伝活動、接客の態度などについて、お客様の反応も含めながら多くの反省と気づきを得ることができた。中心市街地の活性化については、若者が参加する形で活性化を進めていくべきという意見が多く出され、これら学生の意見は津市商工観光部に伝えたが、行政の課題に対して関心を持ち意見を述べる機会があったことは市民性を養うという観点からも有意義なことである。また、連携事業への参加は、他大学との交流の場や実社会とつながる場になり、コミュニケーション力を養う機会にもなった。

なお今回の連携事業の準備に関わる相談や連絡は次のように行った。2014年10月10日(金)、三重短大及び三重大の学生と教職員、津市の職員が三重大大学に集まり、顔合わせを行った。ここではカフェの概要の説明、役割分担や今後の活動の進め方についての話し合いが行われた。その後の担当それぞれの打ち合わせや報告は、Moodle(インターネットを利用したシステム)を用いて行い、メンバー全員で集まって調整することが難しいという問題を解消した。

■今後の課題と方向性

すでに5年目を迎えたこの活動は、地域ではクリスマスの一つのイベントとして受け入れられつつあり、「毎年このカフェを楽しみにしている」と来店くださる方も多い。今後も大学間連携として、地域とつながりコミュニティの場を作っていきたい。

